【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第５部門第２区分
【発行日】平成28年6月16日(2016.6.16)

【公開番号】特開2015-10698(P2015-10698A)
【公開日】平成27年1月19日(2015.1.19)
【年通号数】公開・登録公報2015-004
【出願番号】特願2013-138660(P2013-138660)
【国際特許分類】
Ｆ１６Ｆ　7/06　(2006.01)
Ｈ０４Ｎ　1/00　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｆ１６Ｆ　7/06
Ｈ０４Ｎ　1/00　Ｄ

【手続補正書】
【提出日】平成28年4月22日(2016.4.22)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
装置本体部および当該装置本体部に対して開閉可能に取り付けられた開閉体のいずれか一方における他方に対して前記開閉体の開閉方向と交差する方向で対向する部位に設けられた傾斜面と、
前記装置本体部および前記開閉体の他方における前記傾斜面に対向する部位に設けられた摩擦面と、
当該傾斜面と前記摩擦面との間に配置されているダンパー部材と、
前記傾斜面の傾斜方向の一端側および他端側に設けられた対向する一対の壁面と、を有し、
前記傾斜面は、前記開閉体の開閉方向に沿って一端から他端に向かうに従って前記摩擦面との距離が大きくなる方向に傾斜しており、
前記ダンパー部材は、
前記一対の壁面の間において前記傾斜面の傾斜方向に移動可能に配置され、
前記傾斜面と摺接する部位には第１摺接面が形成され、当該第１摺接面の裏側の部位には、当該第１摺接面よりも摩擦係数が高い平面である第２摺接面が形成され、
少なくとも前記第２摺接面が形成された部位が弾性素材によって形成されていることを特徴とするダンパー機構。
【請求項２】
前記装置本体部に設けられた前記摩擦面と、前記ダンパー部材に形成された前記第２摺接面とは、前記開閉体の前記開状態及び前記閉状態のいずれの状態においても摺接していることを特徴とする請求項１に記載のダンパー機構。
【請求項３】
前記ダンパー部材は、
前記弾性素材からなり、前記第２摺接面が形成されたクッション材と、
当該クッション材を保持しており、前記第１摺接面が形成されたホルダーと、を備えることを特徴とする請求項１に記載のダンパー機構。
【請求項４】

前記ホルダーは、前記第１摺接面が形成されたスライド部と、当該スライド部から前記摩擦面側に突出している突出部とを備え、
当該突出部は、前記ホルダーに保持された前記クッション材に対し、前記開閉体の開方向あるいは閉方向で対向していることを特徴とする請求項３に記載のダンパー機構。
【請求項５】
前記ダンパー部材は、前記第１摺接面が形成された部位、および、前記第２摺接面が形成された部位が同一素材からなり、
前記第２摺接面の粗さが、前記第１摺接面の粗さよりも大きいことを特徴とする請求項１に記載のダンパー機構。
【請求項６】
前記開閉体は、前記装置本体部に対して、予め定めた開閉中心線回りに回動可能に取り付けられており、
前記装置本体部および前記開閉体は、前記開閉中心線の方向に対峙している本体部端面部分および開閉体端面部分を備え、
前記本体部端面部分に前記摩擦面が形成され、
前記開閉体端面部分に前記傾斜面および前記一対の壁面が形成されていることを特徴とする請求項１ないし５のいずれかの項に記載のダンパー機構。
【請求項７】
前記傾斜面は、前記装置本体部および前記開閉体のいずれか一方に形成された凹部の底面に設けられ、
前記一対の壁面は、前記凹部における対向する一対の内壁面であることを特徴とする請求項１ないし６のいずれかの項に記載のダンパー機構。
【請求項８】
装置本体部と、
当該装置本体部に対して開閉可能に取り付けられた開閉体と、
前記装置本体部と前記開閉体における対向している部位に設けられた請求項１ないし７のいずれかの項に記載のダンパー機構とを有することを特徴とする媒体処理装置。
【請求項９】
前記装置本体部は、シート状の媒体を搬送する本体側搬送路、および、前記本体側搬送路に沿って搬送される媒体に所定の処理を行う媒体処理部を備え、
前記開閉体は、
前記本体側搬送路から送り込まれる媒体を、その表裏を反転させて前記本体側搬送路に戻す反転用搬送路を備えた反転ユニットであることを特徴とする請求項８に記載の媒体処理装置。